冬に虫はどこにいる？

自然解説員
澤田　勝生

今年も冬が間近になってきました。虫が観察しづらい季節になり、虫の解説員としては中々やりづらい時期です。冬は虫が少ない季節で探すのに苦労しますが、知識とコツと運さえあれば見つけることは十分に可能です。ではどこに虫たちはいるのでしょうか。

＜虫の休眠について＞

虫は冬になると休眠と呼ばれる状態になり、冬の低温と餌不足を乗り越えます。エネルギーを使わないようにした上、体内に特定の物質を貯め込んで氷点下の寒さにも耐えます。一度休眠に入ると冬が明けて覚醒するまで起きることは無く、またこの時に幼虫やサナギなどの内どの姿をしているかは虫によって決まっています。カマキリやアゲハチョウのように動く必要の無い卵やサナギで冬を越す虫も多いですが、オオムラサキやカブトムシのように幼虫で冬を越す虫も多いです。体が出来上がって丈夫なので成虫で冬を越す虫もいますし、オサムシやゲンゴロウのように数年生きる虫だと成虫で冬を越します。

＜冬の虫と宝探し＞

虫が冬を越す場所というのも種によって決まっています。乾いた場所だと寝ている内に干からびて、湿りすぎるとカビで死にます。分かりやすいと鳥に食べられますし、開けた場所だと雨や雪で死にますし風が吹いて寒いです。休眠中は動けませんから冬の間比較的快適で安全な場所を見つけて休眠する必要があるのです。

２１世紀の森と広場にいる虫の場合だと、みどりの里のカマキリの卵が分かりやすいです。カマキリの卵は形もですが高さと産み場所が種によって違います。木に多い・石に産み付けるなどです。これらを知っているとグンと探しやすくなります。他にも林の南向きの斜面地では土中にオサムシがいますし、樹皮の隙間にはテントウムシがいます。湿地の水際には水生昆虫が隠れていることがあります。

このようにどのような場所に冬を越す虫がいるかはある程度知識でどうにかなりますが、そこから更に虫がここにいるだろうという当たりを付けるには経験に基づくコツが必要で、実際にそこ居るかは運です。

ちょっと難しいかも知れませんが、冬の虫探しは知識を地図にした宝探しです。お散歩がてら挑戦してはどうでしょうか。

作成：2020 年 11 月　21 世紀の森と広場　パークセンター